

明治二年（一八六九）刊「官許・官准」新聞・記事目録（2）

——『博問新報』など五誌——

寺島 宏貴

一 はじめに

明治二年（一八六九）に相次いで再刊・創刊された官許新聞のうち、本誌一〇号で柳河春三の『中外新聞』の目録化を行った。今回は『中外新聞』以外の官許新聞の記事目録として、『博問新報』・『遠近新聞』・『六合新聞』・『天理可樂怖（テレガラフ）』・『内外新報』の目録を掲載する。いずれも『中外新聞』に比して刊行期間が比較的あるいは極端に短く、中には二号程度で廃刊したものや、『遠近新聞』のように外字紙の箱館戦争記事の訳載に予め目的を絞ったものがある。

短期間で軒並み廃刊した要因については先行する拙論

で、明治政府の新聞政策下で誰でも発行が可能となった分、記事の収録方針（＝発行目的）がぼやけ、部数低下を招いたと推測した¹⁾。今回リスト化した分によって、こうした点も検討に付すことができたと考えている。

なお今回取りあげた官許新聞の他に流通したものに『明治新聞』・『開知新報』・『都鄙新聞』・『万国新聞』・『風のたより』・『横派新報もしほ草』・『海外新聞』がある。これら四紙の目録は後号に掲載する予定である。

二 目録凡例

(1) 目録の項目について

記事目録の作成にあたり、次の各項目を設けた。

・号数

号数については基本的に新聞各号の第一丁に記載された数字を採録した。

・発行年月日

号数と同様に、各号の第一丁に記載された発行年月日を採録した。

・記事見出し

新聞の記事のうち、見出しの附されたものとそうでないものが見られる。後者については記事内容から判断した見出し名に代えている。その際の記事見出しは「」で括弧にした。前者について、見出しに記された数字は原文の通り漢数字を用いた。

・記事、広告、刊記の内容

記事内容については主として翻訳記事や内容を摘記した（例えば『遠近新聞』四号にある「横浜新聞紙ガゼットの訳」等）。また、見出しが例えば「御触書」（『博聞新報』一号）などある場合にも、その内容を摘記した。刊記については巻末ならびにその手前の丁に見られることが多く、これらを採録している。

(2) 典拠について

記事目録の作成にあたって依拠した各新聞は『明治文化全集第一八巻 雑誌篇』（明治文化研究会編、日本評論社、一九二七）^①、並びに『日本初期新聞全集』（北根・鈴木監修、ペリカン社、一九八七〜二〇〇〇）^②の収載のものである。

【注】

(1) 拙論「官許・官准」新聞の成立と機能―明治二年（一八六九）刊『中外新聞』を軸に―（『書物・出版と社会変容』一〇、二〇一〇）。

(2) 『明治文化全集』「雑誌篇」について一言しておきたい。今回参照したのは「雑誌篇」初版本である。昭和三〇年（一九五五）の新版「雑誌篇」では官許新聞が一切オミットされたことに注意したい。「雑誌篇」初版の「編輯後記」では「官許・官准」の新聞を収録した動機を左記のように説明している。

一、最後に日々新聞以下六合新聞に至るまで元年より二年に互つての新聞を附載して置いた。雑誌篇だから雑誌を多く載せるのが当然であつたらうが、之は大抵

同じ様なものであるのみならず坊間にも沢山散見するから、紙数の少ない本全集としては寧ろ稀觀の元年二年の新聞を保存しておいた方がよからうと考へたのである。依て日々新聞以下は本篇の附録と心得ていただきたい。

後記の執筆者はおそらく吉野作造であろうと思われる。吉野は「新聞篇」の編集に関与しなかつたようで（田澤晴子『吉野作造』ミネルヴァ書房、二〇〇九）、その構成にいささか不満があつたと推測される。吉野の思惑については本旨を逸脱するためここでは述べない。

次に、昭和三〇年版以後の「雑誌篇」では官許新聞が外された事情について、新版の編集後記で西田長寿が記している。

一、(中略)『日々新聞』以下は、その一部はかつて本会で複製した『幕末明治新聞全集』に収められており、その他についても、内容の上からは、「新聞篇」の記事と重複するものがあるからである。

一、右の削除の代りとして『草莽雜誌』以下の三種を新らしく収録した。この三雑誌を収録した理由は、量的に云つて全誌完全収録が可能であることが第一、三

雑誌の通説によつて、その頃の自由民権的⁽⁷⁾ 反政府的言論の様相が大体にうかがい知られることが第二である。

官許新聞の未収は、同じ明治文化研究会編集の『幕末明治新聞全集』についても同様である。既述のごとく「新聞篇」「雑誌篇」の昭和三〇年版刊行の運びとなるまでは、ある種同書と「新聞篇」・「雑誌篇」とは相補関係にある。それは明治初年という新聞・雑誌の分界明かならざる様相に由来するものである。

【附記】

本稿は、文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)「『太政官日誌』を対象にした史料学の構築と戊辰戦争期の社会文化論に関する学際的研究」(藤實久美子研究代表)の交付を受けている。

①『遠近新聞』記事目録

号数	発行年月日	記事見出し	記事・広告・刊記の内容	
1	明治2 (1869)	3月18日	〔表紙〕「公議所之事 英国諸運上の抜書 檄文 開成学校生徒の概数」	(略)
			緒言	(略)
			〔発行元、版元〕	開成学校御構内 辻 後藤両氏蔵版、東京本町四丁目 上州屋惣七発兌
			〔序〕	(略)
			〔公議所開局〕	(略)
			詔書の写	公議所の議事を親裁するとの詔
			英国諸運上の抜書	馬并に騾馬〔うさぎうま〕の税、無税の事
			檄文(秋月右京亮)	郡県への復古、諸侯名号廃止、藩臣を朝臣と称すべし
		〔開成学校にてフランス学、イギリス学教師雇用〕	(略)	
2	明治2 (1869)	3月22日	〔表紙〕「英国新聞紙の名目 造鼻術の話 英国諸運上抜書の続 雑話 茶の効能の事」	(略)
			〔発行元、版元〕	(略)
			倫敦繁昌記といふ原書より抄訳す	新聞紙開版の事
			〔造鼻術の話〕	(略)
			英国諸運上の抜書の続	四輪車の税、四輪以下馬車の税、人力車の税、免税の事、男子奴隷の税、犬の税
			〔開成学校にてフルベッキ雇用〕	(略)
			〔東京市中へ小学校数カ所取建〕	(略)
			〔プロイセンより語学伝習生二名来日〕	(略)
			諸学科年々發明と号する原書より訳出	弥堅外史訳。茶の効能の事
3	明治2 (1869)	3月26日	〔発行元、版元〕	(略)
			英国諸運上抜書の続	後藤謙吉訳。生産并に所有の税、家督の税、免許の税
			〔天皇の東京行幸につき三州吉田の大橋新規掛け替え〕	(略)
			大垣侯封土返上願書の写	(略)
			御布令の写	今般新貨鑄造決議につき、文久錢一六文通用の儀、租税上納の儀
			〔旧幕府陸軍教師ジブスケ殺害〕	(略)
			〔先年の四国艦隊砲撃につき、旧幕府から四カ国への償金の残金につき〕	(略)
4	明治2 (1869)	4月1日	〔発行元、版元〕	(略)
			御布告の写	昌平学校・開成学校開業につき
			第三号に載せし償金一条書翰の写	(略)
			横浜新聞紙ガゼットの訳	神奈川県市場にて外国人により百姓の子供怪我、コンシュル館による裁決
			〔天皇、東京行幸のため出京〕	(略)
			〔大坂、兵庫にて金札値段下落〕	(略)
			〔横浜裁判所にて、茶・生糸輸出につき各国公使会合〕	(略)
			フランス郡県の説	(略)
			御布告の写	外国人通行の節は往来の半分を譲るよう沙汰
			〔天皇の鳳髻品川を出発〕	(略)
			〔奥州南部沖でストーンウォール艦、脱兵の軍艦と戦争〕	(略)

5	明治2 (1869)	4月10日	[表紙]「通商和親を固くする法、若江修理大夫娘献言の写、南部沖戦争の話二」	(略)
			[発行元、版元]	(略)
			[通商和親を固くする法]	(略)
			伏見宮殿上人修理代府若江薫子献言	横井小楠殺害の下手人減刑の献言
			横浜新聞紙ガゼットの訳 (後藤謙吉訳)	南部沖戦争につき
[南部辺へ上陸の脱走兵降参]	(略)			
[和泉橋医学所にて人屍の解体]	(略)			
6	明治2 (1869)	4月16日	[表紙]「鈴木氏上京の写、横浜新聞紙の訳、雑話六」	(略)
			[発行元、版元]	(略)
			刑法を待たずして私に人命を絶つを禁止するの議	鈴木唯一
			横浜新聞紙ジャパングゼットの訳	小江外史訳。品川・上野にて外国人遭難、四号に掲載の事件始末、金札の儀につきは日本政府より各国コンシユルに送りし書翰の趣旨
			[清国の洋学大学校]	(略)
			[フランスより日本政府にアラビア馬献上]	(略)
			[箱館戦争]	(略)
			[山県有朋・西郷真吾、ロシア・フランスへ渡航]	(略)
			[栗田口の宮様寛典の所置]	(略)
			[横浜フランス公使館への放火未遂]	(略)
7	明治2 (1869)	5月16日	[表紙]「箱館の新聞、柳河氏建白の写、転職の事」	(略)
			[発行元、版元]	(略)
			箱館新聞「ガゼット」と名づくる新聞紙より抄訳す	箱館戦況の報道
			柳河春三建白書の写	国史、風土記、日本辞書を選定すべきこと
			五月一五日転職の事	(略)
			[仙台辺にて和装の外国人一人捕らえる]	(略)
8	明治2 (1869)	5月28日	[表紙]「香港新聞紙の抄出、目賀田氏の建白写、外国新聞、奥羽諸藩重臣の御所置」	(略)
			[発行元、版元]	(略)
			[香港新聞紙の題言翻訳]	投書受付の文言
			唐国使節の事	香港新聞紙中の清国使節ボルリンナム氏への評
			駿藩目賀田某建白の写	深川の地へ玉川上水引水されたき旨建白
			外国新聞紙の抄訳	英仏両国の要衝地につき、フランス皇帝と后コルシカ島へ出立、ブリュッセルにてチフス流行
			奥羽諸藩の重臣御所置の事 附言 (遠近新聞会社啓)	永預け禁錮の所置 西洋窮理学の説話は一生の益少なからず
9	明治2 (1869)	6月15日	[表紙]「箱館落着の始末、絹糸の話、人工にて石を造るの説」	(略)
			[発行元、版元]	(略)
			箱館落着の始末	(略)
			絹糸の話	(略)
			人工にて石を造るの説	(略)

②『天理可樂怖(テレグラフ)』記事目録

号数	発行年月日	記事見出し	記事・広告・刊記の内容	
1	明治2 (1869)	3月20日	[緒言]	(略)
			御触書写	戸籍取調につき
			[横井小楠殺害事件につき薫子といふ夫人上書]	(略)
			[開市場取建につき商社規則二四箇条の内五箇条]	(略)
			[米、塩、油、洋銀、金札、茶相場表]	(略)
		[奥付] 刊記「東京浅草平右衛門町 笹屋政兵衛蔵版」	(略)	
2	明治2 (1869)	3月24日	長崎において九藩士澤殿へ建議	肥後、薩摩他の藩士、旧幕の賊吏を罰典に付すべきことを建議
			商社規則 (第六〜一一一条)	(略)
			[奥付]	(略)
3	明治2 (1869)	3月27日	[客死せる北越の士萩原謙蔵の病床筆記「北情新法」]	(略)
			[奥付]	(略)

③『六合新聞』記事目録

号数	発行年月日	記事見出し	記事・広告・刊記の内容	
1	明治2 (1869)	3月20日	[表紙]「官許 六合新聞 第一號 瑞穂屋蔵梓」	(略)
			緒言	(略)
			[会津侯の奥方、東京に到着]	(略)
			日本政府よりイタリヤ公使への書翰の写	我国金銀貨幣、貿易の儀につき
			横濱より来たりし人のはなし	伊公使の書簡を受け官軍出帆延引ほか
			[横濱にて去辰年に売れたる鉄砲の數夥しき]	(略)
			[猿若町にて仙石騒動を狂言に仕立てるとの噂]	(略)
		告条	此度官許を得て新聞発刊、最寄の草紙店へ六合新聞屋へお投じ下さるよう	
2	明治2 (1869)	3月24日	[箱館征伐のストーンウォール艦房州沖にて破損]	(略)
			公儀所江「ママ」差出す問題之写	「御国体之儀ニ付問題四条」
			御用金を廃すべき儀に付小野清五郎建白の大意	(略)
			今般御製造に相成る貨幣の分量	(略)
			[通称小有馬と唱ふる屋敷の藩士か、父子三人の首級携え行政官へ名乗り出]	(略)
		[正誤]	(略)	
3	明治2 (1869)	3月27日	[小野清五郎建白を公議所にて議す]	(略)
			横濱より来りし人のはなし	仏ミニストル附通弁官ジブスケ襲撃
			南八丁堀情死のはなし	脱走兵と旗本令嬢の心中譚
			[正誤]	(略)
			[アラバマ (船名) の事件再度発生]	(略)
		[葛屋金三郎広告]	(略)	
4	明治2 (1869)	4月1日	[箱館脱走兵の行く末]	(略)
			[伊豆新嶋流罪の者赦免]	(略)
			[イギリス医師ウリースらによる治療のこと]	(略)
			[ストーンウォール号修理整い、浦賀を出航]	(略)
			[会計官租税司属谷可助、郡々村々より賄賂取る]	(略)
			[大塔宮護良親王の宮居を新たに鎌倉に造営]	(略)
		[天皇東行に洛中洛外の人追慕の情止まず発途を拒む]	(略)	

5	明治2 (1869)	4月1日	箱館戦争のはなし	(略)
			御着幸の日イギリスのミニストルを打たるはなし	(略)
			[飛騨高山にて知県事殺害]	(略)
			[正誤]	(略)
			藩内布告書の大意	鹿児島藩内への布告書(版籍返上の事)
6	明治2 (1869)	4月4日	官軍より箱館への布告文	過を改め正しく良に返ること
			箱館よりフランスコンシユルへ送りたる書翰	榎本武揚(蝦夷島之惣裁)、松平太郎(副総裁)による箱館固守の約
			横濱の人来りていふよう	横浜弁天通にてフランス料理人襲撃
			[今朝方来航の蒸気船南部沖の負傷兵士を乗せたる噂]	(略)
			[正誤]	(略)
			[田安公の巡邏、馬車の御者を引き下ろせしこと]	(略)
			[去る辰年冬より当二月まで外国人日本の一分銀を夥しく買取]	(略)
7	明治2 (1869)	4月7日	外国交際条約の儀に付外国官より	公議所への諮問
			[木場の材木問屋へ拔身を提げた強盜押し入り]	(略)

④『内外新報』記事目録

号数	発行年月日	記事見出し	記事・広告・刊記の内容	
1	明治2 (1869)	4月6日	[序]	(略)
			棚倉侯檄文	版籍奉還につき藩内檄文
			[米五万俵、新三位中将へ清水家家来扶助のため、同家領知其藩へ御預けにつき]	(略)
			[三月二八日、東京行幸へ出発]	(略)
			[東京再幸に際し諸藩士、公卿心得]	(略)
			[三田町へ貧院取建]	(略)
			[出版広告]	博物新編訳解(大森秀三訳)
			[奥付]	刊記「明治二年己巳三月 官准」「館外編輯、遠州屋八兵衛蔵版」※以下同じ。
2	明治2 (1869)	4月6日	[東京市中を五十区に分別]	(略)
			高崎藩届書写	有馬兵庫頭家来今朝奸臣共三人打取
			細川藩届書写	有馬兵庫頭家来姓名
			守山藩版籍奉還願書写	(略)
			[出版広告]	漢語字類(庄原謙吉集)
3	明治2 (1869)	4月7日	大垣藩封内布告書写	生産局、皆養院、與借園設置につき(慶應三年十月)
			[版籍奉還につき建言(徳川新三位中将)]	(略)
			[奥付]	(略)
4	明治2 (1869)	4月8日	被仰出写	版籍奉還につき被仰出
			大垣藩封内布告書写	評定局の事(慶應三年十一月)
			[奥付]	(略)

5	明治2 (1869)	4月13日	守山藩布令写	職制三局(政務局・会計局・軍事局)分科につき
			御布令書写三通	行政官より。小学校取建、商法司廃止、府藩県において戸籍作成につき
			[西洋各国の貧院を皇国に於ても取建てること]	(略)
			[奥付]	(略)
6	明治2 (1869)	4月16日	尼ヶ崎藩布令書	職制改革につき(政事堂設置)
			館林藩医者中へ申渡之写	医業、医治の仕方につき心得
			[正誤]	(略)
			[奥付]	(略)
7	明治2 (1869)	4月17日	[東京府三一番組の中年寄、添年寄の辞令]	(略)
			[召使の手先の者、残らず暇申し渡しにつき達]	(略)
			[官軍船、陸中鉾ヶ崎港にて外国船に大砲打ち掛けられる]	(略)
			[東山高台寺に赤心報国の死者の碑を建つ]	(略)
			[紀州和歌山藩内の家政改革ほか]	(略)
			[正誤]	(略)
			[奥付]	(略)
8	明治2 (1869)	4月29日	[東京府番組の中年寄、添年寄任命]	(略)
			[小前積立金預り会所設立]	(略)
			[大垣・全昌寺住職、弟子を召連れ青松寺に旅宿、仏堂大変革開始のよし]	(略)
			新出書目	開知新報(橋爪貫一編集)
			[箱館平定の節紛々]	(略)
			御布令書写三通	行政官。東京市中町名不相当の分につき、戸籍改正にあたり身持ち宜しからざる者につき、根津大神社前妓院につき
9	明治2 (1869)	5月15日	[東京府中町名改正一覧]	(略)
10	明治2 (1869)	5月19日	[東京府中町名改正一覧]	(略)
11	明治2 (1869)	5月26日	[東京府中町名改正一覧]	(略)
			御布令書写	高松老兵衛ほか二人。盲人本業にて貸金銀につき
			[東海道河川満水の節、至急御用状差し支えにつき布告の写]	(略)
			[牛車並びに地力重税上納と、右両車取り締まりにつき伺]	(略)
12	明治2 (1869)	5月23日	[奥付]	(略)
			[会津病院の謝罪人の病疾全快]	(略)
			[婦女子一五〇人飯田町元火消屋敷へ到着]	(略)
			松前戦争之説	(略)
			[今般駿州候にて再興せし武州荏原郡若林村の殉国義士墓に祭る所の姓名]	(略)
			祭奠之節参會人々	(略)
[出版広告]	天然自然道理図解(田中大介纂集)			

13	明治2 (1869)	5月29日	[板倉伊賀守につき、駒込吉祥寺へ武士まかり越し]	(略)
			[松前戦争死傷者一覧]	(略)
			[箱館戦争脱走人生捕り一覧]	(略)
			[福山侯津軽より渡海帰城]	(略)
			[総督清水谷殿松前へ渡海]	(略)
14	明治2 (1869)	6月24日	[箱館戦争の状況]	(略)
			[出版広告]	開知新編
			[英人カール御雇、近日佐渡島へ渡るの風説]	(略)
			[奥付]	(略)

⑤『都鄙新聞』記事目録

号数	発行年月日	記事見出し	記事・広告・刊記の内容	
1	明治2 (1869)	4月	[序]	(略)
			[緒言(六橋外史)]	(略)
			民間小学校之儀ニ付鄙説建白	議員幹事有竹衛門
			議員幹事 伊達五郎建白	公議人、議長につき改正ありたき旨建白
			[或る壯剛の藩士とその僕の話]	
			駿河侯上書	版籍奉還につき上書
		[奥付]	刊記「官許 鈴木氏蔵版」	
2	明治2 (1869)	5月	会計官権判事加藤弘蔵建白	郷重尊大の風俗御一洗ありたき旨建白
			都下諸閥門御廃可然建白	田安中納言家来 神部誘輔
			[町々名主廃し、新たに申付の中年寄・添年寄姓名一覧]	(略)
			高年ニ付御扶助米二人口被下之(武州□□郡久米田村寮、しも)	(略)
			[奥付]	(略)